

特集：見えない病気を見つける「検査の力」

魚沼基幹病院だより

きかんのみかた



魚沼地域
医療の輪

地域全体でひとつの病院

vol. **009** 2026年2月28日発行

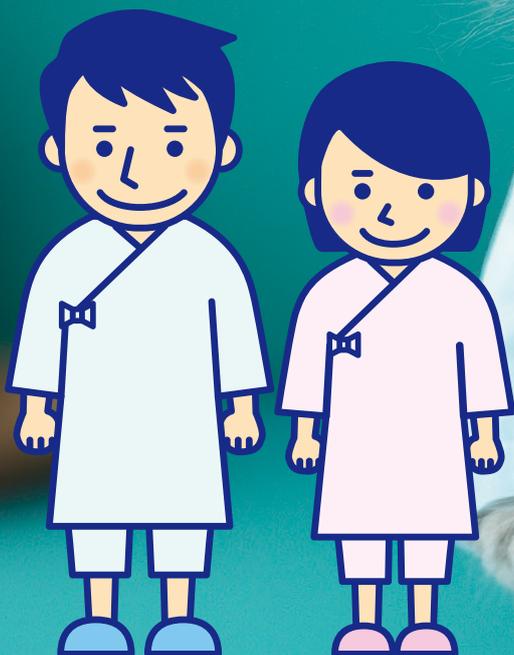


きかんのみかた
vol.003
2022年9月



きかんのみかた
vol.006
2024年3月

見えない病気を見つける
検査の力
体の中で起きていること、
あなたはどこまで知っていますか？

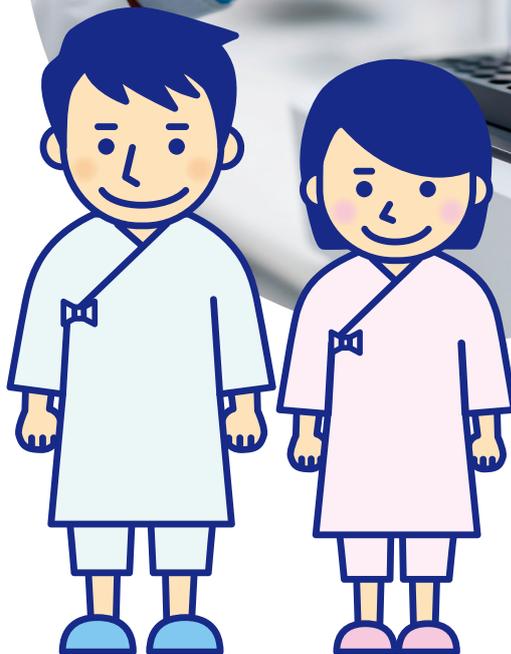


新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

見えない病気を見つける 検査の力

病気は、必ずしも目に見える形で現れるとは限りません。痛みの裏に潜む異変、症状のないまま進行する疾患、そして一刻を争う体内の変化。

検査は、そうした“見えないサイン”を数値や画像として捉え、医師の判断と治療を支えています。正確な検査があるからこそ、適切な診断があり、確かな治療へとつながります。この「検査の力」は、医療のあらゆる現場で役割を変えながら発揮されています。



1

検査とは

体の中の見えない情報を
“見える情報”に

ABOUT
CLINICAL
TESTING



医療機関に行く前から治療の後まで あなたの体の変化を見つめ続けます

体調の変化や症状が現れたとき、医師は見た目や患者さんの訴えだけで病気を判断するわけではありません。検査をすることで分かる客観的な情報を手掛かりに、患者さんの状態を把握します。健康診断で行われる検査では、まだ自覚症状がない早期か

ら体の変化を見つけてくれることもあります。さらに、治療法や薬の選択に役立つ情報も提供してくれます。検査によって得られる情報は、診断から治療、経過の確認まで、よりよい医療判断につながる大切な手がかりとなります。

▶医療の現場で検査が活躍する3つの場面

01

治療が必要な患者さんの病気を特定し、治療方針を決定する場面

02

命にかかわる救急患者さんに、迅速で適切な治療を開始する場面

03

がん患者さんに、負担の少ない正確な手術や効果的な薬を選択する場面

これらの場面で、検査がどのように役立っているのかをご紹介します。

2

一般外来

受診した瞬間から始まる
“見えない情報”集め

OUTPATIENT
SERVICES

発熱や痛み、体調不良など、日常的な症状の背後にある原因を客観的に確かめるのが一般外来検査です。血液検査や画像検査などから、疾患の有無や重症度を把握し、診断や治療方針の決定につなげていきます。一般外来検査は、患者さんにとって治療の第一歩ともいえる大切なプロセスです。



副病院長
(呼吸器・感染症内科／総合診療科)

高田 俊範
(ただ としのり)

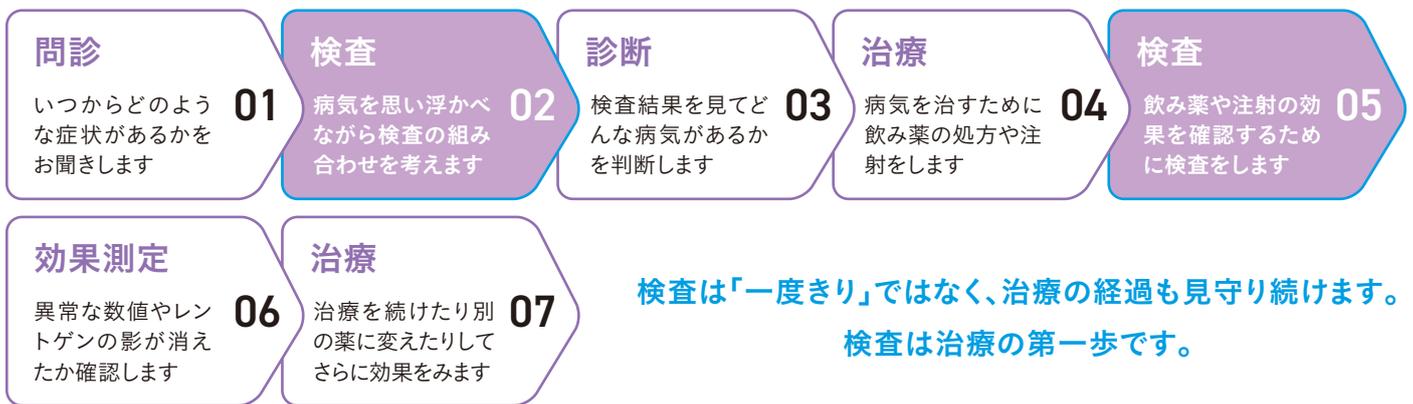
検査は、主に血液・尿検査、レントゲン、それ以外の大きく3つに分けられます



体の具合が悪いとき、または検診で異常があったとき、どんな病気があるか、あるいは病気ではないかを調べるために様々な検査をします。血液や尿の検査は、体の中で起きている目に見えない異常を数字として表すのに役立ちます。レントゲン、CT、MRIなど

の検査では、体の異常を直接目に見える形で画面に映し出してくれます。心電図や呼吸機能検査は、血液検査やレントゲンでは見つからない異常を見つけることもあります。このように、検査を組み合わせることで病気を探っていきます。

▶検査と治療の流れ



▶検査の種類

<p>検体検査</p> <p>血液・尿などから体の状態を調べます。</p>	<p>生理機能検査</p> <p>心電図・超音波・脳波・肺機能などの検査で、体の働きを調べます。</p>	<p>画像検査</p> <p>レントゲン・CT・MRI・内視鏡などで体の中を調べます。</p>	<p>病理検査</p> <p>細胞や組織を顕微鏡で詳しく調べます。</p>	<p>遺伝子検査</p> <p>体質や治療の効果を調べ、治療選択に役立ちます。</p>
--	---	--	--	--

3

救急外来 の検査

治療の優先順位を判別し、
迅速な対応を可能に

EMERGENCY
DIAGNOSTIC
TESTING

▶検査と治療の流れ

救急搬送・
初期診察

01

診察と並行し
て検査を開始
(血液検査・心電図・
レントゲンなど)

02

必要に応じて
CT・MRI検査を
追加

03

検査結果をも
とに帰宅また
は治療を決定

04

(治療の場合)
応急処置・入院
治療または緊
急手術

05



救急医療では、限られた時間の中で「今、体の中で何が起きているのか」をすばやく見極めることが求められます。救急外来の検査は、生命に関わる状態かどうかを迅速に判別し、治療の優先順位や緊急対応の必要性を判断するために欠かせません。一刻を争う現場で、命を守る判断を支えています。



救命救急・外傷センター

地域救命救急センター長

山口 征吾

(やまぐち せいご)

スピードと連携で“全身の状態を把握する” 救急の検査

当院の救急外来では、軽症の方から命の危機にある方まで、様々な状態の患者さんを受け入れています。その中で、緊急手術や入院治療が必要な方には、できるだけ早く適切な治療を開始することが重要です。救急外来では、医師や看護師、各検査部門が

連携し、問診や診察と並行して、複数の検査を同時に行い、短時間で患者さんの状態を把握します。血液検査や心電図、画像検査などを組み合わせ、体のどこで何が起きているのかを多角的に確認し、迅速な治療方針の決定につなげています。

血液
検査

貧血や炎症の有無、肝臓・腎臓などの臓器の働き、体の中の異常を幅広く確認できます。

心電図
検査

心臓の動きやリズムの異常、心筋梗塞の疑いなどがわかります。

超音波
検査

体の中の臓器や血管の状態を、リアルタイムで確認できます。

レントゲン
検査

骨折や肺炎、気胸(肺に空気が入る病気)などが確認できます。

CT検査

脳出血、内臓の損傷、血管の異常など、体の中を詳しく調べることができます。

MRI検査

脳や脊髄、靭帯、内臓などをより詳しく調べることができます。

迅速な診断を支える救急検査体制

救急外来では、医師や各技師が連携し、24時間体制で迅速かつ正確な検査を行っています。血液検査やCT等の結果は即座に共有され、一刻を争う治療方針の決定につながります。この多職種によるチーム医療と24時間の検査体制が、救急外来で患者さんの命を支えています。

検査の現場

専門部署が連携し、
幅広い検査に対応しています

INSIDE THE LAB

検査は、診断や治療方針を考えるために欠かせない存在です。その現場では、臨床検査科、放射線技術科、放射線診断科、病理診断科といった専門部署が、それぞれの専門性を活かしながら連携しています。体の中の状態や変化を数値や画像として捉え、医療を支える検査の現場をご紹介します。



放射線技術科・診断科

診療放射線技師

高橋 則子

(たかはし のりこ)



放射線技術科・診断科 / 画像検査のプロが 体の中を調べます

放射線技術科・診断科は、体の中の様子を調べる検査部門です。診療放射線技師がレントゲンやCT、MRIなどの機械を使って、外からは見えない病気やけが、体の異変を画像として写し出します。撮影した画像を放射線診断専門医が診断し、その結果を

各診療科へ届け、正しい診断や治療につなげています。

技師は、体に浴びる放射線量ができるだけ少なくなるよう配慮しながら、医師が診断しやすい画像を撮影し、患者さんが安心して検査を受けられるよう寄り添う、頼れる裏方です。



臨床検査科

臨床検査技師

宮下 裕美

(みやした ひろみ)



臨床検査科 / 病気の サインを見逃さない！

私たちの体の中では、目に見えない変化が常に起きています。臨床検査室では、血液や細胞を分析して成分を調べる「検体検査」と、心電図や超音波で体の動きを直接確かめる「生体検査」を行っています。最新の分析装置を駆使して血液や尿などを詳しく調べ、隠れた病気のサインを見つけ出します。検査データは早期発見だけでなく、薬の効果や回復具合を測る指標にもなり、医師が正しい診断や治療を行うために重要です。皆さんの健康を支えるため、臨床検査技師が24時間体制で対応しています。



病理診断科

診療部長（病理診断科）

長谷川 剛

(はせがわ ごう)

病理診断科 / がんであるかどうかを診断します

病理診断医は、患者さんを直接診ることはありませんが、患者さんの身体から採取された細胞や組織、病変を顕微鏡で詳しく調べ、「疾患の確定診断」を行う専門医です。その診断は、がんの治療方針を決めるうえで欠かすことのできない重要な判断材料と

なります。院内に病理診断医がいることで、手術中ががん細胞の有無などを確認する迅速診断が可能となり、過不足の少ない、より正確な手術につながります。また、各診療科の医師が院内で直接相談できる体制があることで、診断の質も向上します。

4

がん診療 の検査

早期発見から治療の選択、
効果判定、再発の確認まで

CANCER
SCREENING &
DIAGNOSTICS



腫瘍センター
腫瘍センター長
小杉 伸一
(こすぎ しんいち)

検査は「がんの診断」 から「治療の選択」まで、 がん診療の全ての過程 を支えます

がんを疑う症状がある場合、体に負担の少ない検査から始めます。まず身体検査を行い、次に血液や尿を採取して異常がないか調べます。がんが疑われれば、体に負担のかかる検査(内視鏡や超音波を使った組織採取)を行い、がんの有無を確定します。がんの診断が確定したら、画像検査によってがんの広がり具合を調べ、治療法(手術・抗がん剤・放射線療法など)を決めます。がん治療後も同様の検査を繰り返して再発を早期に発見し、遺伝子検査などを利用して最適な治療を選択します。

がん診療では、できるだけ早期に病気を見つけるために、検査は重要な役割を果たしています。がんを見つけた後も、その性質や広がり、治療の効果などを確認するために、検査の力が発揮されます。**がん診療において、検査は医師の判断を支え、患者さん一人ひとりに合った治療へとつなげます。**



▶がん診療で活躍する検査

がんを見つける
ための検査
01

がんの有無を
確定する検査
02

治療を
選択する検査
03

血液検査

貧血や炎症の有無、腫瘍マーカーなど、がんが疑われるサインを調べます。

画像検査 (CT・MRIなど)

体の中のできた腫瘍(がん)の位置や大きさ、広がり具合を確認できます。

ピックアップ!

超音波内視鏡検査

内視鏡の先端に超音波装置が付いており、胃や腸の内側から超音波をあてて、すい臓や胆管などの体の深い部分にある臓器を詳しく調べる検査です。

病理検査

(組織検査・細胞診検査)

採取した細胞や組織を顕微鏡で調べ、がんかどうかを最終的に確定します。

ピックアップ!

手術中の迅速診断

手術中に採取した組織をその場ですぐに顕微鏡で観察し、がん細胞があるかどうかを短時間で確認する検査です。

手術中に結果が分かるため、切除範囲をその場で判断することができ、必要以上に切除しすぎない、より正確で体への負担が少ない手術につながります。

遺伝子検査

がん細胞の遺伝子を調べてその性質や特徴を明らかにし、どの治療薬が合うかを探ります。

抗がん剤や分子標的薬など、治療法を選ぶ際の参考になります。

ピックアップ!

病理診断医

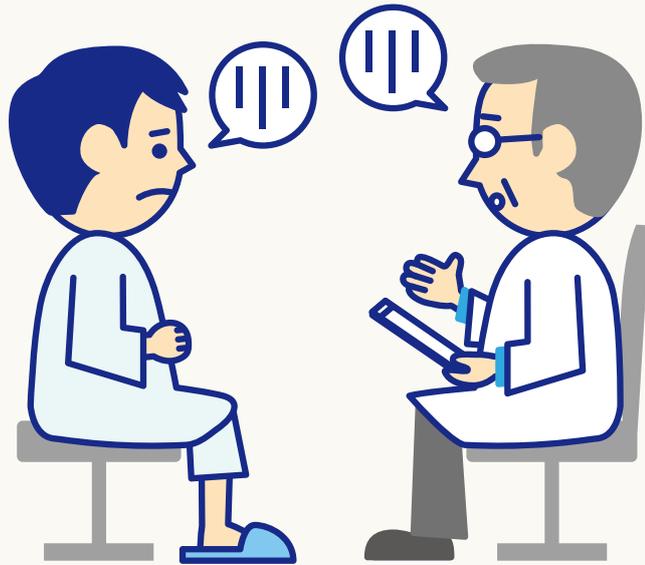
患者さんの体から採取した細胞や組織を顕微鏡で見て、がんなどの病気の確定診断を行う専門医です。遺伝子検査でも、検査に適した標本の作製から診断までその役割は広がっています。

★4ページに詳しい説明があります。

Q&A

患者さんの素朴な疑問と
質問にお答えします

PATIENT Q&A



▶検査に対する患者さんの声

Q. 一度にたくさんの検査をするのはなぜですか？ 01

何らかの症状がある時は、あらゆる病気を想定して、広く網を張るようにたくさんの検査をします。ある程度病気が絞り込めたら、さらに検査を追加して診断を確定します。この場合も、体に負担の少ない検査から始めて、徐々に体に負担のかかる検査をするのが原則です。たくさんの検査をすることで、「早とちり」や「見逃し」を最小限にして、正しい診断にたどり着くことができます。

Q. 症状があまり変わらないのに、定期的に検査を続けるのはなぜですか？ 02

診断が確定して治療が始まると、その効果を確認するために定期的に検査をします。治療が効いて症状が落ち着いていても、検査で異常が見つかることがあります。特に、がん診療では症状が出てから検査すると既にかんが再発して広がっていることが多く、治療が難しくなります。画像検査で再発が分かる前に血液検査が異常となることもあり、早期に再発を発見するため定期的に検査をします。

Q. 救急外来を受診したのに、検査をしないことがあるのはなぜですか？ 03

救急外来では、命に関わる緊急性の高い患者さんを優先して診療を行っています。そのため、診察の結果、緊急性が低いと判断された場合には、夜間や休日に検査を行わないことがあります。これは、限られた医療体制の中で、必要な方に迅速な医療を提供するための判断です。症状が落ち着いている場合は、平日の外来診療時間内に、かかりつけ医や当院外来での受診をご案内することがあります。

Q. 検査結果に異常がなければ、もう心配はいらないのでしょうか？ 04

普通は心配ありません。ただし、検査を繰り返すことで異常が出てきたり、前回とは別の検査項目を調べると異常が見つかることがあります。また、薬を飲んでいると異常が隠れてしまうこともあります。まれに、結果に異常がなくてもその人にとっては高すぎ/低すぎである場合もあります。異常がないと言われても症状が続いたり悪くなったりするときは、もう一度検査をする必要があります。

Q. 同じ検査なのに、タイミングによって検査内容や項目が違うのはなぜですか？ 05

病状によって検査項目は変わります。とても具合が悪くて救急外来を受診した場合、普通の外来診療よりも多くの項目を検査します。これは、重大な病気を見逃さないためです。たとえば、血液検査の結果を見てCTやMRI検査を追加することもあります。逆に、入院中は検査項目が減ったり検査の間隔が長くなったりします。治療効果を判定するには、異常値に絞って変化を見れば良いからです。

5

検査の症例

「検査の力」
診断・治療の現場から

CLINICAL
CASES

検査は、診断や治療の場面でどのように役立っているのでしょうか。このページでは、一般外来、救急外来、がん診療のそれぞれの現場で、検査が診断や治療の判断につながった症例をご紹介します。検査の結果が、実際にどのように活用されたのか、見ていきましょう。



一般外来の症例

01

- 来院時の状態：咳、38度を超える発熱、薬を飲んでも改善しない
- 検査内容：血液・尿検査、胸部レントゲン検査
- 診断結果：胸部レントゲンに影があり、血液検査（抗体検査）が陽性であったため、マイコプラズマ肺炎と診断
- 検査の効果：マイコプラズマ肺炎に効く抗生物質に薬を変更



救急外来の症例

02

- 来院時の状態：1週間続く発熱、咳はなし
- 検査内容：血液・尿検査、レントゲン、CT検査など
- 診断結果：胸部レントゲンでは分かりにくい肺炎がCT検査で確認され、血液検査とも整合したため、入院治療を開始
- 検査の効果：かぜの診断ではなく適切な肺炎治療を実施



がん診療の症例

03

- 来院時の状態：痛み、出血、黄疸、体重減少、食欲不振、便通異常
- 検査内容：身体検査、血液・尿検査、画像検査、細胞・組織検査
- 診断結果：がんの存在と広がりを確認し最適な治療法を決定
治療後は効果の確認と再発の早期発見（通常5年間）
- 検査の効果：早期発見・早期治療によるがんの根治（検診を推奨）

UKB
基金



地域医療を守り、育て、未来へつなぐ UKB基金へご支援をお願いします

魚沼地域の医療の質を守り、未来へつなぐための仕組みとして、新潟大学のご協力により「新潟大学魚沼地域医療教育センター魚沼基幹病院基金（UKB基金）」が設置されました。この基金への寄附金は、総合診療医・高度専門医の育成、地域医療人材の

教育・定着、医療機器等の整備に活用されます。ご寄附は、新潟大学の寄附・サポート窓口からのお申し込みとなり、税法上の優遇措置が適用されます。【お問合せ】魚沼基幹病院総務課 025-777-3200



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

魚沼基幹病院は、新潟県が設置し、一般財団法人新潟県地域医療推進機構が運営する病院です。病院に併設される新潟大学歯学総合病院魚沼地域医療教育センターと連携し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を注ぎます。

一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院
〒949-7302新潟県南魚沼市浦佐4132

Tel 025-777-3200 (代) Fax 025-777-2811 (代)

魚沼基幹病院

検索

hp <https://www.uonuma-kan-hospital.jp/>

facebook.com/UonumaKikanHosp x <https://x.com/UonumaKikanHosp>
「フォロー」「いいね」「リツイート」「シェア」をお願いします。

